

- ② クローズアップ 信頼される病院
技術や知識だけでは、本当の医療はできない。最後の処方箋には「親切」の心が必要。
医療法人仙養会 北摂総合病院 理事長・院長 木野昌也
 - ・「小さな親切」運動の支部として活動する病院
長野県・諏訪湖畔病院／飯田病院
 - ・いくつもの奇跡がうまれた 母へおくるウェディング
一般財団法人 仁和会総合病院

⑧ 心がすくすく育っています (公財)JKA 補助事業報告

⑩ のんちゃんのおすすめ絵本『だいだらぼっち』
定年族必見! 新企画「人生と食のレシピ」が始まりました。

⑪ 田中義具前代表を偲んで (最終回)

⑫ H28年度事業スタート

⑭ information & HIROBA「おとなの作文」



「小さな親切」誌は、季刊発行 春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

平成 28 年 5 月 1 日発行 通巻 502 号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061
東京都千代田区三崎町 2-20-4
TEL. 03-3263-2866
FAX. 03-3263-3838
<http://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
© 無断転載禁止
落丁、乱丁はおとりかえいたします。
デザイン 有限会社リトルフット
イラスト 清水 稔



読み・書きは人をつくる

代表 鈴木恒夫

私 がこの世に生を享けたのは1941年(昭和16年)の2月10日。ついに私も今年、後期高齢者(75歳)のお仲間入りをさせていただいた。ここまで生きてこられたことに感謝する一方で、さて、これから世の中にどうご恩返しをしていくか。自らに問いかける毎日だ。

私は「小さな親切」運動がスタートした昭和38年に毎日新聞の記者になった。これがこの運動とのかわりを持ち続ける第一歩となったことは、あちこちでお話していることだが、私が新聞記者をめざしたのは、中学生の頃に国語の女性教師から、「鈴木君、君の読み書きの力はスゴイ!!」とおだてられて、いい気になったためだ。

古 い人間の言うことかもしれないが、「読み、書き、そろばん」は幼少年期の子ども教育の原点とされた言葉だった。私は「そろばん」、つまり理数系の学力はイマイチ。しかし「読み」=読解力と「書き」=文章力はマアママで、中学2年生の頃には、もう“物書き”への道をめざし始めていたといつていい(そのわりには、この一文も程度は低いかも……)。

そうした自分の体験から、私は国政から身を引いた後に大学の特任教授として教壇に立つと、学生たちに作文を書かせる時間を設けて、周囲をびっくりさせた。栃木の白鷗大学で1年間、神奈川の横浜商科大学で5年間。それぞれ1回1時間半の講義を前期、後期とも15回。講義は「現代政治論」と「マスコミュニケーション論」だったが、講義のうちの3回は400字詰め原稿用紙を5枚とじにして配布、講義の冒頭に黒板に題を示し、時間内に書き上げて提出させた。

驚いたのは学生たち。「先生、作文なんて中学

以来書いたことはない」と声を荒げるものがあったり、「ペンなど書くものを持っていないので、貸してください」というものがあったり、「ワープロじゃダメですか?」というものがいたり……。急激なネット社会の進行で、若者たちはかつての「読み、書き」からすっかり疎遠になってしまっているのだ。文章として整っているかどうかどころか、誤字、脱字が目立ち、ここに書くのも辛いほどの程度の例も少なくない。

しかし、私は提出されたすべてをしっかりと読み、赤ペンで修正、加筆したり、コメントをつけたりしてお返した。

そ うしたなかで、素晴らしい文を書く学生がいなかった訳ではない。横商大の松井一寿君は抜群の力を示してくれた一人だ。卒業を前にして、彼は私にこう伝えてきた。「先生、本当にありがとうございました。文章を書くことの大切さを心底から学ばせていただきました。なにとぞ後輩たちにも、この宝物を教え続けてください」。彼は同時に政治家をめざす気持ちも深めていたらしく、卒業後に勤めた民間会社を早々と辞めて、神奈川県湯河原町の町会議員選挙に出馬した。それは今年3月初旬のこと。開票の結果、この最年少27歳の青年候補者は、ものの見事にダントツのトップ当選を果たしたのだった。

「読み、書き」が、いかに人間を成長させてくれるか。松井君は公職についたのだから、私はあえて個人名まで明らかにしたのだが、痛感したのは私たちの運動が進めてきた「作文コンクール」「はがきキャンペーン」の持つ重みの尊さ。心ある皆様方とともに、ますます応募作品が増えていってくれるよう、一層努めていこうではありませんか。